

厚真町 就農のギモン (H28版)

Q. 厚真町ってどんなところ？

A. 北海道で太平洋に面し、苫小牧市・千歳市からそれぞれ車で30分くらいのところにあります。

気候は温暖で、数字上では軽井沢に積雪・温度などが近く（ただし、冬はもっと寒いですよ）、梅雨もない（ゴキブリもいない）ため、住みやすい地域です。北海道太平洋岸一帯は積雪が少なく、除雪なども他の道内市町村に比べると楽だったりします。

Q. 厚真町の特産は？

A. 水田地帯で良質な米の産地ですが、北海道型の畑作（小麦・大豆・馬鈴しょ・てん菜〔砂糖の原料〕）、ほうれん草などの野菜、花、更には肉用の黒毛和牛・乳用のホルスタインなどなど、何でもあります。

また、特産として、栽培面積日本一のアスカップ（ベリーの一つ）の生産もしています。

Q. 米やアスカップで就農できるの？

A. 米は大規模な農地が必要な土地利用型作物といって、農産物販売で生活できる規模の経営に必要な農地が大きく、また、「田んぼ」は畑よりも土地代が掛かるため、稲作はハードルが高いです。

アスカップは厚真町の特産ですが、収穫期が7月の2～3週間程度と短く、年間を通しての収入の確保が難しいことから、基本的には他の作物と組み合わせた経営が必須です。（経営が安定してからチャレンジしてみても？）

Q. なんの作物で就農すればいいの？

A. 厚真町で新規就農者に勧めているのは、都市や港に近い地の利を活かした施設野菜（ほうれん草、トマトなど）、露地野菜（かぼちゃ、フロッコリーなど）、花き（カーネーション、マムなど）です。稲作や畑作を行うためには、大規模な農地や農業機械が必要となりますので、それなりの初期投資額が必要になります。この他、イチゴなども町では生産しているのですが、作物を増やす場合は、何か収益の柱となる作物を習得してからの方が好ましいです。

Q. 畜産・酪農で参入することはできますか？

A. 初期投資額が大きくなるので、まずは資金の問題があります。北海道では自分で家畜の工サを生産することでコストを下げているのですが、そのための広い牧草地を確保するための資金に加え、家畜を飼育するための畜舎や、搾乳するための機械などの購入資金も掛かり、初期投資が段違いに大きいです。一般的には、国の無利子資金を活用する機会が多いのですが、その借金を背負うリスク（場合によっては、担保・保証人が必要になることも）を覚悟の上で開始しなければなりません。

一番リスクの少ない方法としては、畜産農家・酪農家に研修に入り、離農をされる方の経営をそのまま引き継ぐこと（居抜き買→専門的には「第三者継承」）です。厚真町内でも後継者のいない農家が多いため、十分に可能性はありますが、離農される方のタイミングもあり当然必ず就農できる保証もない（場合によっては、しばらくの間は独立就農できず、酪農ヘルパーなどをとする人もいます）ので、慎重な判断が必要です。

Q. 資金がないんですけど・・・

A. 農業者は自分が経営主（社長）です。起業するのと一緒ですので、基本的にはある程度の資金なければ就農をお勧めしません。しかし、実際には国の施策などをうまく活用し、少ない資金で就農した人もいます。

ただし、当然資金量によってはできる農業の形が制限されたり、途中で上手くいかなくなることもあります。

厚真町 就農のギモン 【H28版】

Q. 地域おこし協力隊って？

A. 「人口減少等の地方で、都市からの地域外の人を受け入れ、各種の地域協力活動をしながら地域で生活し、定住・定着してもらう」のが、地域おこし協力隊です。

厚真町の「地域おこし協力隊・農業支援員」は、地域の農業者の農作業の手伝い〔研修〕を通じ、技術を身につけ、農村地域に溶け込み、最終的には地域の担い手として〔就農〕を目指すことを目的としています。もちろん「地域おこし」ですので、任期中は農業以外の活動（地域の祭りへの参加や、自治会活動・手伝いなど）を行うことも必要になりますが、そういったことを通じ地域に溶け込むきっかけにもなります。

Q. 集落アドバイザーって？

A. 集落アドバイザーは、町内の農村集落を巡回し、「目配り」することで集落と役場をつなぐ架け橋となっています。特に、新規就農者のほ場や研修生の研修先には、この集落アドバイザーが逐次巡回し、営農の相談や研修日程の調整、集落（農業者）とのコミュニケーションの円滑化などを図ってくれます。（町内の農業協同組合の元・営農指導員を中心に採用しています。）

Q. 農地は町が用意してくれるの？

A. 農地法という法律により、農地を買ったり借りたりする場合には、原則として農業委員会の許可を受ける必要があります。また、自分に権利がある農地は全部耕作する、農作業に常時従事する、などの各種要件を満たす見込みがなければ、例え過去に農業に従事していた経験がある人ですら、新たな農地利用の権利は許可されません。（だから、新規就農者はしっかりした研修実績が必要！）

また、新規就農する場合の農地は、自分で探す必要があります。もちろん、厚真町や農業委員会では研修生の方に有利な農地の情報があつた場合には、真っ先にお知らせしていますし、町の集落アドバイザーが町内の農業者との顔つなぎをしますので、そうした中で農地の所有者と話し合いながら手続きを進めていきます。（でも、町内で就農に向けた研修を頑張っていると、知り合いになつた農家の方から「あそこの農地貸してあげるよ～」なんてお話があつたりしますよ。）

また、現在の厚真町は主要な農家が200戸と多く、一戸当たりの平均経営農地は14haと道内平均に比べやや小さいことから、地域の若い農家が規模拡大を望んでおり、特に「田んぼ」に関しては、新規就農者にはなかなか手に入りづらい状況にあります。こういったことから、施設野菜を推奨しています。

Q. 家の前に田や畑があるような家に住みたいのですが。

A. 「家の前に耕作地がある」という環境は憧れもありますし、移動時間がないことや暴風雨・大雪の時など、経営的にも理想です。しかしながら、現実的には農家の離農とその方の農家住宅が空き家になるタイミングが違うことから、なかなか理想的な環境の実現は難しいのです。どういうことかというと、「農家の離農＝引っ越し」ではないため、農地を手放してもその隣の住居にはそのまま住まわれるのが普通です。その際、農地は近隣の担い手などが購入・賃貸借してかならず耕作するため、その後に農家住宅が空いた時には、今度は農地が空かない、という状態になります。（もちろん、新規就農者にとっては、就農経費に加え、住宅取得・賃貸に係る資金を同時に用意できるか、という壁もあります。）

自分で農地を購入した際には、いろいろな制約がありますが、その一部に農家住宅を建てるのが最終的に可能となる場合もあります。でも、すぐにそういった環境を享受するのは、なかなか難しいです。もちろん、厚真町では研修生の方に有利な農家住宅の情報があつた場合には、真っ先にお知らせしています。

厚真町 就農のギモン 【H28版】

Q. 厚真町で農業法人に就職したいのですが。

A. 厚真町内で農業を行っている法人は約15社ありますが、家族を中心とした経営が多く、農業繁忙期を中心としたパート・アルバイトの雇用が主で、常時雇用者（正社員）を採用・募集しているところは多くありません。

厚真町では農業法人への就職を希望される場合でも、まずは「地域おこし協力隊・農業支援員」などを通じた研修で技術を身につけながら町内の農業法人とのマッチングを行い、即戦力として就職されるのが近道と考えています。（もちろん、研修を経ずに、町内の農業法人と雇用契約を結びそのまま就職されることは、何ら問題ありません。）

Q. 年齢が45歳より上なのですが、間に合うでしょうか？

A. もちろん、就農するのに早い・遅いはありませんが、資金的にはかなり厳しいです。というのも、国や北海道・厚真町が行う新規就農者への給付金・補助金等の年齢制限（最初に農地利用の権利を取得した時の年齢）が原則45歳未満であること、となっているからです。

実際に就農を目指すとなると、まずは農地の利用権の取得を、とりますが、農業経験のない方には農地の賃貸・売買を行うことができません。農業委員会の判断になりますが、基本的には1年以上の農業実務経験や就農に向けた研修経験がなければならないのです。「研修⇒就農⇒経営の安定化」までにかかる期間は最低でも3年ほど必要であり、その間は満足な収入を得られないという状況になるため、もし45歳以上から就農するとなると、就農（営農開始）に係る資金に加え、その3年間程度の生活費分を最低でも確保していなければ、新規就農どころか生活をする事自体も難しくなってしまいます。（資金的に余力があれば、後は体力面だけかなあ～。）

【お問合わせ先】厚真町 産業経済課 農政グループ

〒059-1692

北海道勇払郡厚真町京町120番地

でんわ 0145-27-2419

FAX 0145-27-3944

